

歯科医師によるワクチン接種等に関する日歯 Q&A（第 1 版）

Q1. 歯科医師による新型コロナウイルス感染症のワクチン接種は、どのようにして決定されたのか。

A1. 国民に対するワクチン接種を安全かつ迅速に行う必要があるが、地域により接種にあたる看護師の確保が困難な状況にあることから、歯科医師によるワクチン接種を認める必要性が指摘されてきた。ただしワクチン接種は医行為であり、歯科医師が行うことができないと解釈されることから、厚生労働省の有識者会議において違法性が阻却され得るかどうか議論が行われ、その結果を踏まえ国が決定した。

Q2. 歯科医師によるワクチン接種は、どのような手続きで要請されるのか。

A2. ワクチン接種の実施主体である自治体が、集団接種を行う特設会場において接種にあたる看護師の確保が困難と判断し、地域医師会等と合意した上で、地域歯科医師会等に対し要請があることを想定している。歯科医師が接種業務にあたる場所は集団接種の特設会場であり、歯科医療機関で行うわけではない。

Q3. 集団接種を行う特設会場はどのくらいあるのか。

A3. 3 月時点の全市町村に対する厚生労働省の調査では、特設会場は設置予定もふくめ全国で約 4000 ヶ所となっている。特設会場には、保健所、保健センター、学校、公民館、その他の施設等が含まれる。この時点において、約 23% の特設会場で看護師不足が懸念されているが、実際にどの会場で、何人程度の歯科医師の協力が必要か等については不明で、厚生労働省に情報提供を求めている。

Q4. 特設会場における業務全体の流れはどのようなになるのか。

A4. 受付 → 予診票確認 → 予診・接種の決定 → 接種 → 接種済証の交付 → 接種後状態観察 の流れが想定されている。なお会場によって、ワクチン接種のほか、予診票の確認や接種後の状態観察においても歯科医師の協力が求められることがある。会場には必ず医師が居り、予診やアナフィラキシー症状が発生した場合の対応にあたる。

Q5. どのような歯科医師がワクチン接種を行うのか。

A5. 「筋肉内注射の経験を有している又はワクチン接種のための筋肉内注射について必要な研修を受けていること。」とされている。まずは、歯科麻酔科や口腔外科に携わっている若しくは携わっていた歯科医師や病院勤務の歯科

医師、他にも筋肉内注射の経験がある歯科医師が想定される。ただし、より多くの歯科医師の協力が必要とされる可能性もあることから、迅速な研修システムの構築に協力していく。

Q6. 研修はいつ頃から始まるのか。

A6. 昨年の PCR 検査の検体採取の時と同様に、日本歯科医師会の E ラーニングのシステムで研修動画を提供する予定である。5 月中には受講を開始できるよう、急ぎ準備している。なお実技実習について詳細は未定であり、厚生労働省に確認している。

Q7. 接種にあたる歯科医師の処遇について、どのように措置されるのか。

A7. 自治体から地域歯科医師会等へ協力要請がある場合には、自治体に対して、報酬や損害保険加入等について、しっかりご確認いただきたい。また本会からも「ワクチン接種に協力する歯科医師は、事前にワクチン接種を受けておくべき。」と指摘しているが、歯科医師が安心して接種に協力できるよう、引き続き国に働きかけていきたい。

(歯科医療機関における対応)

Q8. 来院患者がワクチン接種を予定していることが分かった場合、抜歯手術等は延期が必要か。

A8. 日本歯科医学会連合及び厚生労働省に確認したところ、現時点では新型コロナウイルス感染症のワクチン接種と歯科治療における観血処置等に関するエビデンスは示されておらず、関連するガイドライン等もない状況である。したがって、ワクチン接種の進捗状況を鑑み、問診時にワクチン接種予定を確認した上で、患者の状態等を踏まえて主治の歯科医師として判断することになる。

参考までに、本年 3 月 24 日に日本麻酔科学会のホームページに公表された内容を添付する。なおこれは「全身麻酔による手術」に関するもので、米国疾病予防管理センター (CDC)、英国 RCS (Royal College of Surgeons of England) のステートメントを紹介している。

RCS は患者の手術を計画するときは、

- ① ワクチン接種の状況に関係なく、必須の緊急手術を行う必要がある。
- ② 緊急でない待機手術は、ワクチン接種後すぐに行うことができる。手術日とワクチン接種を数日間 (最大 1 週間) 空けると、術後の発熱などの症状の原因が、接種によるものか、手術自体の結果かどうかは区別できる、としている。

なお別に CDC は、「ワクチン接種後 2 週間空けるように。」としている。

以上

mRNA COVID-19 ワクチン接種と手術時期について

公益社団法人日本麻酔科学会

理事長 小坂橋俊哉

COVID-19 対策特別委員会

予防接種と全身麻酔施行までの期間について、CDC と Royal College of Surgeons of England からの情報を以下に紹介する。CDC では 2 週間、Royal College of Surgeons of England では数日と記載されている。CDC からは免疫抑制療法を行う患者に対する情報もあり、大きな手術後に免疫能が低下する懸念がある場合に参考になると考えられる。CDC はワクチンによる抗体産生が麻酔や手術に伴う免疫抑制により抑制されることを考慮していることが考えられ、英国 RCS はワクチン自体の安全性からの意見と思われる。RCS としては、ワクチン自体が生ワクチンや不活化ワクチンと異なり、mRNA ワクチン自体で COVID-19 を起こすことがないので、むしろ接種 2、3 日後に起こることの多い発熱など副反応と術後の炎症等との鑑別をするために、その期間(数日)を避けるという意味であると推測する。

いずれにしても重要なことは、いずれも明確なエビデンスに基づいたものではないことであり、施設の感染対策部門および手術チームで検討し、院内で共通認識をもって臨むことを推奨する。なお、今後、厚労省からの見解が出た場合や mRNA 以外のワクチンの場合には、変更する可能性があることをご理解いただきたい。

●米国疾病予防管理センター(CDC)

・他のワクチンとの同時接種

安全性と効果に関するデータが欠如しているため、ワクチンは単独種で行うべきであり、どのワクチン接種であっても最低2週間はあけて行う必要がある。しかし、接種の利益が同時接種で起こる未知の潜在的风险を上回ると考えられる場合は、短期間のうちにCOVID-19と他のワクチンを接種してもよい。

・免疫抑制療法とワクチン接種

免疫抑制療法予定者へのCOVID-19ワクチン接種の最適なタイミングを知らせるにはデータが不十分である。しかし、免疫不全患者に対するワクチン推奨事項とガイドライン(ACIP Vaccine Recommendations and Guidelines)によれば、理想的にはCOVID-19ワクチン接種は免疫抑制療法開始の少なくとも2週間前に完了する必要がある。

(Interim Clinical Considerations for Use of COVID-19 Vaccines Currently Authorized in the United States.

CDC: Last updated Mar 5,2021.

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/vaccines/index.html>)

(ACIP Vaccine Recommendations and Guidelines. CDC: July 16, 2013

Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP)

<https://www.cdc.gov/vaccines/hcp/acip-recs/general-recs/immunocompetence.html>)

●Royal College of Surgeons of England

手術とコロナワクチン接種について

患者の手術を計画するとき

- ・ワクチン接種の状況に関係なく、必須の緊急手術を行う必要がある。
- ・緊急でない待機手術は、ワクチン接種後すぐに行うことができる。手術日とワクチン接種を数日間（最大で1週間）空けると、術後の発熱などの症状の原因がワクチン接種か手術自体の結果かどうかを区別できる。

(For surgeons and surgical teams treating patients during COVID-19 – endorsement of the Academy statement. 22 January 2021

<https://www.rcseng.ac.uk/coronavirus/vaccinated-patients-guidance/>)